

## 郷土芸能伝承に向け新たな一歩

GEINOど真ん中ミーティング

県南地域の郷土芸能5団体による「GEINOど真ん中ミーティング」が2月24日、石鳥谷生涯学習会館で行われました。

同催しは、郷土芸能を担う若者有志で組織する「100年先へ、プロジェクト」が主催。各団体への支援活動として、伝承に携わる若い世代に、団体の垣根を超え、伝承に向けた情熱を共有する場を提供しようと初めて開催されました。

各音楽団体は舞を披露した後、継承の取り組みや思いなどを紹介。来場者約150人からエールが送られていました。



勇壮な舞で観客を魅了した上根子神楽

## 華やぐ宿場 おひな様2,300体

おおはさま宿場の雛まつり

「おおはさま宿場の雛まつり」が2月22日から3月3日にかけて大迫町内で開催されました。

メイン会場の大迫交流活性化センターを含め町内30会場に、多種多様なひな人形約2300体を展示。およそ300年前の享保雛や、愛らしい表情の次郎左衛門雛など、代々受け継がれた貴重なひな人形が来場者を出迎えました。

23日には着物でひな巡りを楽しんでもらおうと着付けコーナーを開設。華やかな着物に身を包んだ皆さんは、宿場の春を思い思いに満喫していました。



着物姿で雛巡りを楽しむ皆さん

## 子どもの町で社会に理解深める

未来町 小中学生が職業・社会体験

子どもたちが架空の町を運営する「未来町」が2月24日、花巻市交流会館で開かれました。

市内の若者有志で設立された「キラキラみらい☆クリエイション」が主催し、小学4年生から中学生まで約110人が参加。市役所や銀行、カクテルバーなど25団体・企業が設置したブースで、さまざまな職業を体験しました。

子どもたちには働いた対価として仮想通貨「ギンガ」を支給。雑貨を購入したり、納税したりと、楽しみながら社会の仕組みに理解を深めていました。



仮想通貨「ギンガ」を銀行から引き出す参加児童

## 賢治さん まちづくり

第76回

### 宮沢賢治のイーハトーブ 花巻レストラン

シテイプロモーションウェブサイトに「まきまき花巻」に掲載されているエッセー「宮沢賢治の花巻レストラン」をご存じですか。このエッセーでは「花巻の農と食×宮沢賢治が織り成す時空を超えたレストラン」をコンセプトに、花巻の魅力を発信しています。

そんな架空のレストランを実現しようと2月15日～21日、「宮沢賢治のイーハトーブ花巻レストラン」が、東京丸の内ビル「小岩井フレミナール」にオープン。花巻産の農畜産物を使い、賢治の詩や童話からヒントを得た特別メニューが提供されました。

16日には、料理研究家で同エッセーのライター・中野由貴さんなどによるトークと朗



①花巻産雪下ニンジンを使ったカタラーナ / ②満員御礼の会場でトークする中野さん / ③期間限定で登場した同レストラン

## 世界と花巻

vol.66

### 間違われやすい英語「Let's～」

「Let's～」という英語は「～しましょう」という意味で、ご存じの人も多いと思います。

しかし、英語圏の人が「あれ？ なぜみんなはこの英語が好きなのだろう？」と思うほど、日本で頻繁に「Let's～」が使われているように感じます。よく使われること自体は悪いわけではありませんが、問題はこの英語の使い方が英語圏と違うということです。

例えば日本では「安全に運転しましょう」「頑張らしましょう」など、「～しましょう」という言葉がよく使われますが、英語圏では特定の場合にしか使われません。「Let's～」を使って直訳した場合、子どもに話しかけたり、子ども扱いしたりするような、不自然な英語になることが多くあります。

「安全に運転しましょう」を英訳する場合は、直訳の「Let's drive safely」ではなく、「drive



花巻市国際都市推進員  
ガットマン・ジェシー

safely」の方が自然です。一見、命令形のように見えるかもしれませんが、「提案している」ような意味合いの英語になるので「～しましょう」の直訳よりはいいですね。同様に「頑張らましょう」の場合は、直訳の「Let's do our best」ではなく「good luck」など、直訳ではない英語の方が自然です。

もし「Let's do our best」と言われたら、子ども向けの言葉のように聞こえるため、私なら「5歳の子どもが幼稚園の先生に話し掛けられている場面」を想像してしまいます。

日本で「Let's～」という英語がよく使われているのを見ると、私のような英語圏の人は「すごく子どもっぽい英語の話し方」のように聞こえてしまいます。

もっと自然な英語を使いたいなら、「～しましょう」を直訳しない方がいいですね。